■ 河合塾テキスト「地理総合，地理探究（共通テスト対応）〈2026 基礎シリーズ〉」演習問題 解説 ■

【第13講】

解答番号	正解	解　説	重要度
1	③	昼夜間人口比率は，昼間人口÷夜間人口× 100 で表される値で，夜間人口（常住人口）に対する昼間人口の比率を示す。一般に就業・就学機会の多い中心地機能の高い大都市圏の中心部でより高い値となり，郊外の住宅地域であるベッドタウンで低い値となる傾向にある。年間商品販売額は，卸売業と小売業の商品販売額の合計である。卸売業は生産者から仕入れた商品を小売店などに販売する業態で，物流の中心を担う中心地機能の高い都市に集中する傾向が強い。小売業は卸売業者などから仕入れた商品を最終消費者に直接販売する業態で，中心地機能の高い都市に多く立地するが，卸売業に比べれば人口分布に応じた立地傾向が強い。設問文のとおり３つの市区は人口規模が同程度という前提で，まず，Ｙは「大都市圏の副都心」とあることから，商業・サービス業が集積し中心地機能が最も高いと考えられ，就業機会が非常に多く昼夜間人口比率は 100 を大きく上まわり，年間商品販売額も最も大きい**タ**に該当する。副都心とは，都心の中枢管理機能の一部を分担する地区で，オフィスビルや商業・娯楽施設などが立地する。東京の池袋，新宿，渋谷，大阪の天王寺などがこれにあたる。次に，Ｘは「行政と文化の中心地となっている地方都市」とあることから，一定の中心地機能をもつと考えられ，昼夜間人口比率は 100 を上まわり，年間商品販売額も比較的大きい**チ**に該当する。一方で，Ｚは「二つの大都市にはさまれた立地」，「ベッドタウンとしての住宅」とあることから，他の大都市の通勤・通学圏や商圏に含まれる郊外に位置し中心地機能は低いと考えられ，昼夜間人口比率は 100 を下まわり，年間商品販売額も最も小さい**ツ**に該当する。なお，**タ**は東京都豊島区（副都心の池袋が位置する），**チ**は群馬県前橋市（県庁所在都市），**ツ**は大阪府高槻市（大阪市と京都市の中間地点に位置する）の統計指標である。	★★★
2	④	Ｐ：デパート。都心付近に位置する都市の中心駅周辺に分布している。Ｑ：ホームセンター。日用雑貨などの家庭用品を広く取りそろえる比較的大規模な店舗である。まとめ買いや大きな商品などを購入する場合もあり，自動車での買い物客が多く，駐車場を備えた比較的大きな敷地が必要なため，地価の安い郊外の国道など幹線道路沿いに分布している。Ｒ：スーパーマーケット。食料品などの最寄り品を販売する店舗であるが，比較的小規模なものは人口密度の高い住宅地に，比較的大規模なものはホームセンター（Ｑ）と同様に郊外の国道など幹線道路沿いに数多く分布している。	★★★
3	①	医療・保健：**ア**。アメリカ合衆国は，公的な医療保険制度が未整備で，各個人で医療保険に加入しその保険料も高いため，家計支出に占める医療・保健の割合が高くなっている。逆に，日本は公的な医療保険制度が整備されており，この割合は低くなっている。住居：**イ**。日本は人口密度が高く都市部に人口が集中するため，都市部の地価が高く，家計支出に占める住居の割合が高くなっている。食料：**ウ**。先進国のアメリカ合衆国や日本に比べて，発展途上国の南アフリカ共和国やメキシコでの割合が高い。生きてゆくためには，まずは飲食をしなければならないため，貧しい国では家計支出に占める食料の割合（エンゲル係数）が高くなる。	★★

4	③	北アメリカ：A。アフリカ：B。イギリスのロンドンは世界的な経済都市で，とくにアメリカ合衆国との経済的つながりが強いため，同国からのビジネスでの旅客到着数の割合が高いと考える。マドリード：**ク**。スペインは，中央・南アメリカに多くの植民地があったため，同地域との結びつきが強く同地域からの旅客到着数の割合が高いと考える。パリ：**キ**。フランスは，アフリカ（おもにアフリカ北西部）に多くの植民地があったため，同地域との結びつきが強く同地域からの旅客到着数の割合が高いと考える。フランクフルト：**カ**。ドイツは，中央・南アメリカやアフリカなどに植民地がほとんどなかったため，特定の地域との強い結びつきはなく，旅客到着数の割合は各地に分散している。	★★
5	③	アメリカ合衆国：**ミ**。日本への距離が遠いため，訪日観光客数が最も少なく，交通費の消費額が最も多い。韓国：**ム**。訪日観光客数は多いが，１人当たり旅行消費額が少ない。韓国人観光客は旅行消費額が少ない傾向にある。中国：**マ**。訪日観光客数が多く，富裕層が買い物目的で訪れるなど，１人当たり旅行消費額が多い。買い物代：P。とくに中国の割合が高く，“爆買い”という言葉が流行したように，中国人は買い物目的で訪れる観光客が多い。宿泊費：Q。とくにアメリカ合衆国の割合が高く,アメリカ人は高級な宿泊施設で,アメニティや料理を楽しむ傾向が強いといえる。	★★★
6	④	訪日旅行者数の推移は，2000 年の時点では，先に経済成長し個人の所得が増えた韓国や台湾が多く，**ラ**が韓国に該当する。これより遅れて急激な経済成長により個人の所得が増えた中国は，2010 年代後半から訪日旅行者数が急増し，**リ**が中国に該当する。訪日旅行者の地方別延べ宿泊数は，九州・沖縄での割合が高いPが，距離的に近い韓国に該当する。大都市圏を含む近畿，中部，関東での割合が高いQが，買い物目的で訪れる観光客が多い中国に該当する。	★★★
7	④	表２より，時刻は東のほうが早く進んでいるため，グリニッジ（経度０°）よりバンコクは東に位置し，東京はさらにその東に位置していることがわかる。**ア**：７時間 20 分。表２より，バンコクは東京から－２時間の時差があるため，東京出発時のバンコク時刻は９時 45 分である。表１より，バンコク到着の時刻が 17 時 05 分とあるため，東京からバンコクまでの所要時間は７時間 20 分となる。**イ**：＋４時間。表１より，東京・ドバイ間の所要時間が 12 時間 00 分とあるため，ドバイ到着時の東京の時刻は翌日の 10 時 30 分で，ドバイ時刻が５時 30 分であることから，東京はドバイから＋５時間の時差がある。表２より，東京はグリニッジ標準時との時差が＋９時間であるため，ドバイはグリニッジ標準時との時差が＋４時間であることがわかる。	★
8	②	**カ**：ａ。一般に，値が大きいものを濃く，値が小さいものを淡く表現するほうが，直感的に数値の大小を把握しやすい。**キ**：ｙ。人口が増えたか減ったかを確認しやすい階級区分は，プラスの値とマイナスの値で分ける設定を行うのが適している。	★★★
9	⑥	A：**ウ**。南北アメリカ大陸やオーストラリア大陸が描かれているため，新大陸が発見された大航海時代以降の近世の世界図である。B：**イ**。キリスト教カトリックの世界観に基づいてつくられた中世の世界図であり，TO マップとよばれる。C：**ア**。２世紀頃に古代ギリシャの地理学者プトレマイオスによって描かれた世界図で，地球を実際より小さく見積もっていたため，アジアが東に拡大して表現されている。	★

10	④	④：正文。メルカトル図法では，任意の２地点間を結ぶ直線が等角航路（経線に対して常に一定の角度で交わる経路）を示すため，航海図に利用された。①：誤文。正距方位図法では，図の中心と任意の地点を結ぶ直線が大圏航路（２地点間の最短距離となる経路）を示す。②：誤文。正距方位図法では，等角航路を簡潔に求めることはできない。③：誤文。メルカトル図法では，大圏航路は同一経線上と赤道上の２地点間以外は求めることができない。	★